

高度生殖医療センター

■ スタッフ

センター長 **池田 智明**

医師数 **常 勤 3名**

■ 診療科の特色・診療対象疾患

当センターは、2014年5月より開設し、三重県下の不妊で悩む患者様の診療を行っております。

一般不妊治療から体外受精・顕微授精まで幅広く治療を行っていきます。また、合併症のある方、反復不成功者、がん治療前の妊孕性温存治療なども行っております。他には、当センターの泌尿器科医師により、男性不妊治療も行い、精巣精子採取法 (TESE) も行っております。

1. 特色

2014年5月より三重大学医学部附属病院新外来棟開院に際して、新しく高度生殖医療センターとして開始致しました。初年度で採卵周期113例、2年目で320例と徐々に症例数も増加しております。当センターには、生殖医療専門医1名在籍し、2017年度から日本生殖医学会認定の認定研修施設を受ける予定です。近隣の施設での初診外来が2ヶ月から半年待ちなど、三重県では患者様の数に対して圧倒的に不妊施設の数がない状況でした。多くの方の治療を開始し、当院で妊娠・出産される方も多くみられております。また、重度の糖尿病や心疾患、膠原病など、クリニックでは管理の困難な方は、県下の不妊治療施設からご紹介をいただいております。血液内科や内分泌内科、心臓外科など他科と連携しながら、合併症の方の管理を妊娠から出産に至るまで、一元的に管理を行っております。泌尿器科医による男性不妊治療も積極的に行い、無精子症の方への精巣精子採取法 (TESE) も行っております。また、がんの患者の方に対して、化学療法前の精子凍結・胚凍結も積極的に行っており、卵子凍結も2017年度から開始予定です。

2. 主な診療対象疾患

一般不妊患者や高齢不妊患者、他院での反復不成功の方の治療を行っております。卵管閉塞、精子減少症から、受精障害、着床障害、不育症に対しても治療を行い、心疾患、糖尿病、膠原病などの合併症を持った方の治療を行っております。

■ 診療内容の特色と治療実績

近年、晩婚化現象がみられており、当センターを受診される方も40歳以上の方が増えております。日本産科婦人科学会の公表するデータでも40歳が治療患者のピークとなっており、不妊患者の高齢化は全国的な傾向になっていきます。妊娠を希望される方は自然な妊娠を希望される方が多く、不妊原因の中で最も多い卵管閉塞・狭窄に対しては、卵管鏡下卵管形成術を行い、自然妊娠を目指していきます。もちろん、タイミング治療・人工授精も行いますが、それでも妊娠されない方は、体外受精等の高度な治療を行っていきます。子宮筋腫や子宮内膜症などが原因の不妊の患者様に対しては腹腔鏡手術などできる限り低侵襲な手術を行います。重度の糖尿病や心疾患、膠原病など合併症を持っている方は、他科と連携しながら妊娠に向けての治療を行っております。当センターの本年度の2016年12月までの実績は、表1に示すとおりです。40歳以上の方が増加している現状では、体外受精の件数が徐々に増加しております。現在までに、208例の胚移植を行ってきましたが、当センターで妊娠され、当院で出産までされた方は2016年12月までに8名おられます。

当センターでは、産婦人科のみならず泌尿器科医師も在籍し、男性不妊患者様の治療も積極的に行っております。漢方薬、ビタミン剤のみならず、薬物治療において精液所見の改善を目指すこともさることながら、無精子症の方には精巣内の精子を顕微鏡下で探し出す、精巣精子採取法 (TESE) も行っております。

近年、がんの治療により寛解に至る方が増えておりますが、がん治療により生殖能力が著しく低下する方がまだまだ多くおられます。当センターでは、男性患者に対しては、がん化学療法前の精子凍結を行っております。女性患者様には現在は結婚されている方に関しては胚凍結を行っており、2017年度からは未婚の方でも行える卵子凍結も実施予定です。卵巣凍結に関しては現在準備中です。化学療法後で妊孕性の低下する方が多くいる現状があり、積極的に妊孕性温存治療は行っております。現在までの所、癌患者の精子凍結は2015年3例、2016年は3例、胚凍結は2016年度は2例を行っております。

表1. 当センターでの実績

(2016. 4～2016. 12)

症例数	
卵管鏡下卵管形成術	37例
刺激周期採卵	34例
自然周期採卵	214例
顕微授精	163例
胚移植	154例

表2. 当センターでのがん患者に対する治療実績
(2015. 5～2016. 12)

症例数	
精子凍結	6例
胚凍結	2例

■ 臨床研究等の実績

- 1) 効率の良い新規精子凍結方法の開発
- 2) 子宮腺筋症合併不育症患者に対する PDE5 阻害薬の有効性の基礎的検討
- 3) *in vitro* での多能性幹細胞からのミューラー管上皮細胞の誘導
- 4) 新規胚移植法開発に向けた専用デバイスの開発